

○議長（春田 新一君） 再開します。

島居真吾君から早退の届出がっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、改めましてこんにちは。対政会の波田政和でございます。

本題に入ります前に、先月行われました対馬市議会議員一般選挙にて、市民の皆様方になんぬ御支援、御支持をいただきまして、1議席を守ることができました。この場をお借りしまして感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、私は、核ごみ施設誘致絶対反対を前面に掲げ、市民の皆様方に訴え、信を問うた選挙であつたと認識し、皆様と共通の評価であつたのではないかと確信を持っております。

私も議員は市民の代弁者であり、責任職にあることを真摯に謙虚に受け止め、職責を果たしていくものであると、これほどまでに民意を感じた選挙はなかったのではないのでしょうか。幸いにも次世代の人材の方々が改革を旗印に、議会への進出となりました。慣例に流されるのではなく、初志貫徹の精神で今後共に励み、御活躍されるものと期待をしております。

また、議会も新体制のスタートとなり、さらなる飛躍と改革ができていくものと信じております。市民の皆様方が信託した我々議員17名です。対馬市議会の力量に期待くださいまして、今後ともよろしく願いしておきます。

では、通告しておりました質疑に入らせていただきますが、対馬市議会議員一般選挙期間中も地域の声がたくさん届いていました。機会ある都度、市民の皆様の声を伝え、住みやすい地域づくりのため努力していただけるものと信じるものであります。

まず、1点目の久田堀田地区の水路対策の件でございますが、対策は完了しているとの報告を伺いましたが、関係各位への連絡も住民サービスの一つであると思っておりますので、対応の迅速さや市民への優しさをいち早く伝え、比田勝市政の盤石さをこれからもアピールしてください。

また、同地区の生活道路の整備もお願いしておりましたが、進捗状況も併せて御答弁よろしく願いしておきます。

続いて、2点目でございますが、久田小中学校へのメイン通学路であり、張り出し通路部分、河川側の伐採整備の件でございます。いつ頃着工していただけるのか、再確認です。それに伴い、久田簡易郵便局前の隅切り部分から、道路拡張に関しても進捗を尋ねておきます。

また、久田地区の要望としまして、久田地区から流れる河川で、久田浜延命寺下までのたまり部分の伐採とヘドロ撤去についてでございます。

冒頭にもお話ししましたとおり、対馬市議会議員一般選挙期間中、たくさんの地域の方々の声が届いておりました。私も議員は執行部に提案とお願いすることしかできません。状況を察し

ていただき、迅速な対応をお願いするものであります。

3点目でございますが、人口流出歯止め対策です。

この課題につきましては、合併以来、状況に応じ提案や質疑を繰り返した問題なのですが、まず、人口流出に対しての対馬市の具体的な取組を再確認したいので、市長、ここも御答弁をよろしくをお願いします。

これまでも市長のほうからも、その都度の質疑の中で答弁をいただいておりますが、人口流出の歯止め対策としての成果は見えにくいのですがいかがでしょうか。

私は、定住人口促進を前面に出し、住みやすい地域づくりが人口流出歯止め対策につながるのではと思っております。自然的増減だけへの対応では、島民への期待は応えられないと思うのですがいかがでしょうか。

詳しくは後ほどの再質問のときに提案したいと思いますので、以上、3点、よろしく御答弁をお願いしておきます。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 波田議員の質問にお答えいたします。

初めに、久田地区の水路被害についてでございますが、畑の地権者からも同様の相談を受け、本年2月、担当課において現地調査を行い、当該側溝の詰まりの解消及び清掃を実施後、側溝から当該畑への水の流出がないことを地権者立会いの下、確認しておりますので、今後も経過等を見ていきたいと考えております。

次に、生活道路整備の進捗についてでございますが、現地の状況は確認しております。しかしながら、市内各地区からも同じような補修要望が多数ございますので、交通量、路面の傷み具合など、ほかの要望箇所との調整を図りながら対応してまいりたいと考えているところでございます。

次に、久田簡易郵便局から小中学校への通学路に隣接する河川、普通河川——新川というんですかね——の整備についてでございますが、現況写真を確認いたしましたが、河床及び護岸より樹木が繁茂しておりますことから、担当課へ伐採等を行うよう指示したところでございます。担当課のほうからは、6月6日に事業者のほうに指示を済ませているということでございます。

また、久田地区より延命寺までの河川のヘドロの撤去についてでございますが、河川のしゅんせつ等につきましては、他の地区からの要望等も多数あり、優先順位を決めて順に行っていくこととしておりますが、下流域に雑草の繁茂を確認しておりますので、除草作業の対応を行うよう担当課へ指示しているところでございます。

次に、人口流出に歯止めが利かない今日、内外で活躍している人材を観光大使などに起用し、全国にPRする考えはないかとの御質問でございます。

本市の人口動態の状況は、令和6年4月から令和7年3月までの転入者数が1,239人に対し転出者が1,424人と、単年度で見ましても転出者数が185人と上回っている状況でございます。この人口流出や人口減少問題につきましては、第2次対馬市総合計画や第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略を基本に、人口減少対策として、対馬の魅力発信や安心・安全な生活の確保に取り組んでおります。

U I ターン推進事業施策での近年の移住実績は、令和2年度は83世帯の128人でありましたが、令和5年度は96世帯の167人、令和6年度は97世帯の141人と増加傾向となっております。一定の成果が得られていると認識しております。

人口減少対策は全国的な問題であると同時に、本市にとっても最重要課題だと認識しております。

議員御提案の様々な手法を活用した対馬の魅力発信につきましては、既にメディア露出の高い相川七瀬さんを対馬市赤米諮問大使に任命し、これまでも幾度となく対馬へお越しいただいております。相川七瀬さんには、折に触れて対馬のPRに御協力いただいているところでございます。

また、本年5月26日には、全国放送のテレビ番組におきまして、歌手のM I S I Aさんが対馬を第二のふるさとだとおっしゃったことは、島内はもとより、全国的にも大変大きな反響がございました。

私自身も、6月3日にM I S I Aさんの東京の事務所を訪問し、残念ながら御本人とは直接お目にかかることはできませんでしたが、事務所のマネージャーを通じて、M I S I Aさんの発言に対する対馬市民一同の深い感謝と、今後のさらなる御活躍への心からの激励をお伝えしてまいりました。事務所からも、M I S I Aさんが対馬に対して何か恩返しをしたいと言っていると、大変好意的なお言葉もいただいております。

今後は、M I S I Aさんをはじめ、これまで対馬に御縁をいただいた相川七瀬さんなど、人とのつながりを大切にしながら、このような貴重な御縁を生かし、対馬の魅力をより多くの方々に知っていただけるよう努めてまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。

まず、通告1に関しましては、私も完了済みの話を聞いております。

ここで、先ほども話しますように、私どもはいろいろ要望を聞きながら、皆さん、地域に根を張ってあると思っておりますので、ここを御理解していただきながらお話を聞いてください。

まず、優先順位が全てどこにもあるんだという話でございますが、それはもちろんそのとおりだと思います。優先順位がどれが最優先かというのをなかなか決めにくいと思うんです。こうい

ったところで、決して私は押しが強いわけございませんので、その都度話をさせていただきま
すということでございます。

まず、そういった意味からして、今、市長の話を聞きますと、順次皆さんと相談しながらやっ
ていっていますよという御答弁だったと思います。まさにそのように、住みやすい地域をつくる
ために汗をかいてくれませんか、よろしくお願いしておきます。

それでは、2番目の河川については、新川の件でございますが、今、お話がありますように、
これは誰が見てもどうかせないかんということは分かるはずなんです。そういったことから、早
急な着工をお願いしたいということです。

まず、私としたら、あそこを通学専用道路とでもいいですか、そういう感覚で捉えております。
そういった意味からすると、ちょうど張り出しの部分から非常に危険度も増しておりますし、早
急な対応をよろしくお願いします。

それに伴って、反対側、先ほど言いますように、郵便局の隅切り部分から、以前、買収をしな
がら学校付近まで道を広げるような話を聞いていたんですが、市長、ここは間違いございませ
んか。自席からでいいですから。いいですか。

○市長（比田勝 尚喜君） そのとおりでございます。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。

それでは、私は今回は、議長、通告をしておりませんが、これは関連していますので、右
と左ですから。ついでに、今、隅切り部分からの話を少しさせていただいておきます。

といいますのが、私は小中学生のメイン通学路として捉えております。そういう中から、地域
が利用しやすく、通学路も安全であるために、生活道路整備がなされていこうとしていると思っ
ているんです。そういう中から、少し中身をお尋ねしますけども、計画全長といいますか、もう
買収とかは終わっているんですか。この辺、ちょっと教えていただければ。

○市長（比田勝 尚喜君） 担当部署のほうに答えさせます。

○議長（春田 新一君） 建設部長、原田武茂君。

○建設部長（原田 武茂君） お答えいたします。

御指摘の市道は久田2号線になります。こちらにつきましては、令和5年度から事業を始めて
おります。拡幅を伴う改良工事でございますけども、既に令和6年度で2,850万円ほど実施
いたしまして、測量設計、その他で令和6年度実施しております。本年度、令和7年度につつま
しては、用地交渉、用地費と補償費、看板等の撤去になりますけども、こちらのほうを実施する
予定にしております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。ありがとうございます。

先ほど言いますが、着工のめどは分かりました。順次やっていっているのも分かりました。私が一番疑問に思うのは、何の目的なんですかということをお尋ねしたいんです。あそこを広げる目的が何かあるでしょう。それちょっと答えられますか。私としますと、単なるインフラ整備じゃないと思っているんです。だから、その辺が分かれば御答弁をお願いします。

○議長（春田 新一君） 建設部長、原田武茂君。

○建設部長（原田 武茂君） お答えいたします。

本路線の整備計画につきましては、まず第一に、久田小学校の通学路の指定を受けておりますということから、工事の実施によりまして、通学児童の安全性の確保及び車両通行の円滑化を図ることを目的に整備を進めるようにいたしております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。私も同じ認識でございます。

そうしますと、少しスピードを出していただかないと、計画内で進めておりますと時間がかかるじゃないですか。あそこは本当、これからメイン通路という説明もしますが、久田から南部地区は統合合併でバスの利用が増えると思うんです。そうなってくると、早急な対応が必要じゃないかということが今回話をしたかったわけです。それと同時に、目的をなぜ尋ねたかといいますと、通勤通学をする、豆敷からとか、内院とか、あっちの南部地区の方々の通学疲労を早く軽減させてやらないかんじゃないですか。なぜこの話になるかといいますと、今は確かに登校するときと下校するときとの学校施設近くには、確かにバスは来ております。そういったことから考えて、現況でもバスは入っているわけですね。

そこで提案なんですけど、それに伴って、また校門前までというのは、小学校と中学校とありますので、なかなか2か所に入るというのはいかがなものかと考えます。だから私は提案なんですけど、あそこに元久田幼稚園跡があるんです。あそこをどうか対馬市の財産ですから、あそこを乗降場所に整備できないかなという御提案なんです。

といいますのが、小学校も中学校も同じところから降りて、同じところに出発するじゃないですか。家に帰られますよね。そういうふう to 便宜上とかも、いろいろ安全対策にしても、今は道路に適当に止めるとか、そういう体育館の裏にあるとか何かばらばらなんです、行きと帰りが。その辺を考えたときに、早急に1か所で乗降ができる体制を早急に取りべきじゃないかなと。

これは、用地交渉しなくちゃいけないとか、そういう問題はないじゃないですか。自分のところですから。この辺どうですか。そこだけちょっと関連で教えてください。考え方の問題、市長、どうですか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ちょっと私もこのことはあまり事前に勉強はしていなかったところでもあります、旧久田幼稚園跡のところを乗降場にするということであれば、今の旧久田幼稚園跡は、今現在はたしか何も利用はされていないと思っております。そういうことでありますので、今後のちょっと協議事項というふうにさせていただければというふうに思います。

○議長（春田 新一君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ぜひ前向きな検討をお願いしておきますが、今、市長も話の中にありましたように、あんまり認識していないんだと。そりゃそうでしょう。もう空いて10年になりますから。それほどに遊休施設があるということなんです。

今、部長も話の中で、計画を立てながら進んでおりますという説明やったじゃないですか。そしたら、あそこをどうか利用しようと考えなくちゃいけないんじゃないですか、普通なら。だから改良の目的はと尋ねたんです。通学路として重要なんですよという以上は、安全輸送ができるためという解釈なら、そこまで踏み込んでいただきたかったなという思いで提案しております。

だから、今、市長もしっかり検討してみようということでございますので、早急にこの辺はやれば、皆さんが安心してそこに集合、離散ができて移動がスムーズにできるんじゃないかなと思っております。

今は非常に道路を無断で使用するというような状況なんです、バスが。それはあまりよろしくないんじゃないかなろうかという思いがしましたので、空いとるところを上手に使っていきましようというのが、今回のこの問題に関しての提案です。もう一度、どうですか、市長、そこは。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほども答弁いたしましたけども、また現地のほうに出向いてでも、1回、現地精査させていただければというふうに思います。

○議長（春田 新一君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。それでは、早急な対応を取っていただけるということで、この件も終わりにしておきたいと思います。

どちらにしても、安全対策が一番喫緊の課題だと思っておりますので、それに対して優先順位も分かりました。だから、そこら辺をしっかりと分析していただいて、安全のためにどうするかということは簡単なことなんです。空いとるところを上手に使えばいいだけのことなんです。これは、あっちこっちから苦情があったわけじゃないんです。ちょっと見苦しいなという話もあっていたので、そこんとことをよろしく願いしておきます。

それでは、3点目の人口流出の歯止め策について、ここは先ほどから言いますように、幾度となく、私ではなくてどなたさんもこの話はしております。しかし、今、市長が話されますように

ストップが利きません。入ってくるより出るほうが多いと。それはそうでしょうね。しかしながら、先ほど話しますように、自然増減だけの対応だけではいかなものかと思っているんです。何か手を打ちましょうというのが3つ目の質問なんです。

今までは、出たり入ったりするのを自然体で捉えるしかなかったじゃないですか。先ほどの行政報告の中でも、またインバウンドも19万人来ましたとか、これはもう自然でしょ。別に何か対馬市が呼んだわけでもないし。そういうことじゃなくて、私としたら、日本一の対馬をつくりましょうやと市長に提案したいわけです。なぜかという、日本一が幾つあるか分かっていますか、対馬に。

大きく捉えた例をいいますと、美津島町の浅茅湾、あれは日本一なんです。海岸線の距離は。分かっていたか。そうらしいです。私も測ったわけじゃないからよく分からんとですけどね。そういうふうに、PRが何かよそから流出が止まらないならば、流動人口を増やすしかないじゃないかという次の話の展開になるわけです。そこを考えながら、これから話をしていきたいなと思っています。

市長の話では、烏帽子岳も、おかげで長期間止まっておるものもやっと開通すると。今日からですか。という御説明もありました。もちろんそういう中で、観光客なりがたくさんまた来島になると思います。そういう中で、先ほど言います浅茅湾を一望できるぐらいの観光施設を計画したらいかがでしょうか。何か自然豊かで日本一だというぐらいのものを考えてみてもいいんじゃないですか。

そうしないと、いろいろ他力本願的な、有名人を使ってというようなことも提案はしてありますが、そうじゃなくて、自力で集客できるような体制を私はつくっていくのが政治力だと思っています。だから、毎回の話の中で、あれはできん、これはできんというのと全てできんわけです。だから、そういった意味で、この自然が豊かな対馬に呼び込むぐらいの何かメインを考えたらいかがかなと思っているわけです。どうですか、市長、そういう考え方はないですか。よろしくお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、議員おっしゃられるように、日本一ということであれば、まず、この今現在、対馬の海岸に押し寄せる海洋漂着ごみも年間3万から4万立米ということで、日本一だというふうに自負しております。この海岸漂着ごみの回収、そして、この利活用をどうして今からやっていくかということで、このたびの大阪・関西万博のほうでも、いろいろな関係者の方々の議論もしていただきながら、全国そして全世界に発信をしたわけでございます。

これが少しでも人口減少の歯止めになればという気持ちは持っておりますし、また、先ほどから議員のほうから話がありました烏帽子岳のほうに何か日本一となるような工作物を造れんかと

ということですけれども、そのような工作物はなかなか私は現実的には難しいというふうに思っておりますけれども、実は、この烏帽子岳にはアニメ映画ガメラの中で、このガメラが烏帽子岳に立っている、オメガ塔のほうに向かっていったということで、烏帽子岳もオメガ塔もここが有名になりまして、国内に発信をできているものというふうに思っております。

むしろ、そういった形で対馬の観光やら、そして環境問題を発信していければいいなというふうに考えております。

○議長（春田 新一君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） それでは、まず、話は戻りまして、人口流出が止まらない現況を考えたときに、もうこれは自然増減だからやむを得ないという解釈でありますか。市長、どうですか、そこは。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 決して自然増減やむを得ないという思いじゃなくて、亡くなられる方はなかなかこれは止めることは、今の医療技術でも難しいところもございますけれども、それよりも、むしろ生まれる子供の数を増やすことができれば、人口減少対策の一環にもなりますし、人口動態も少しでもマイナスが少なくなるんじゃないかなというふうには思っております。

○議長（春田 新一君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 自然増減というのを、出生率の話もありました。もう一步、出生率の話をなされたから、それに追加ではございませんが、出生率を高めるためにどうするのかまで考えてほしいんです。

だから、長い歴史の中で出産育児手当とか、いろんな話は聞きました。聞きましたけれども、それでもそれがならないということは、足らないということになるわけです。そして、そういった環境にある方々も島外に出るわけですから、その辺をいかに止めるか。だから、いつもの話の中で戻りますけれども、定住人口が、定まる人が満足いく対馬じゃなきゃいかんということになりますよね。しかしそうじゃなくて、1人出たら家族みんなで出ていくというような、今、何か負のスパイラルの状況じゃないですか。その辺を考えたときに、いつもやり取りする中で、だからどうするんですかという話をいつもしていると思うんです。

それは、今言う、市長が出生率の話をしていただきましたので、それに付け加えをしますが、高めるために市長の考えや、こういうことを考えておるといようなこともまた別の機会がいいですから提示していただきたいなと思っております。

そういった意味で、先ほど観光施設など、とても今造れる状態じゃないということは理解しましたが、しかし、全国PRするなら、定住を守りながら流動を止めるためにはどうするのかということに結論づけたらなると思うんです。ということは、何かメインがなくちゃいけないと

ということにならないですか。

だから、先ほど冒頭に話しましたように、他力本願的な有名人でもというのを質疑の中に入れておりましたが、今でも1人おるんですよと、それは確かに分かっております。しかし、市長も先ほどMISIAのところに行って訪問してきたということになれば、お互いそこで何かつながりができたと思っております。だから、対馬を語る人たちはたくさんおられますよね。映画を作る話も出ていたやないですか。もう市長のことですから、全県回ってあると思います。そんならそういうふうに、皆さんに伝えてくれませんか、こうしてやっとならんと。そうせんと分からないですよ、私たちは。どういう動きになっているのか。だからといって、今回こういう話をしております。市長、もっと出し惜しみせずに、こんな動きをしているんですよということを皆さんに話してくれませんか。

今、MISIAのところに行ったと初めて聞きました。やっとテレビで見た人はみんな行ったんだなと思うでしょうよ。それじゃ駄目やないですかと思います。どうですか、市長、そこ。見える化のために。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） また、いずれ広報等でこういった形でMISIAの事務所を訪ねてきましたと、その折に、MISIAさんのマネージャーさんがおっしゃってくださったのは、なかなか対馬では大きなコンサートホール等がないということで、コンサートはなかなか難しいけども、例えば福岡等でコンサートをしたときには、対馬の子供たちをぜひ招待したいということまでおっしゃっていただきましたので、ここら辺につきましては、今後、広報等で紹介をしていきたいというふうに思います。

そして、先ほどの人口減少関係のところ、やはり出生数をいかに落とさずに横ばいか、できるなら上げるかというところで進めていくには、今、対馬で不足しているのが男女の出会い、マッチングだというふうに私自身感じております。そういうことで、このマッチングがうまくいけば、それなりに男女のつながりができまして、子供の出生率も、昨年度はたしか1.77ぐらいでしたけども、できればもう少し上げていければいいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。

それでは、もう一度、日本一の対馬ということで戻りますが、市長の話でも、漂着ごみが日本一であるという話が出ました。決してこれは名誉なことではないんですよ。確かにそうかもしれません。ごみを見にわざわざ来んですよ、観光客が。それを再利用じゃないけど、そういう表現の仕方なんだろうけども、私が言っている日本一というのは、対馬そのものを日本一にしま

しょうという意味です。

だから、いろんな箱物とか、例えば東京タワーみたいな立派な塔を建てるとかいろいろあると思うんです。あるんだろうけども、やっぱり何か一つメインがあったら集客はしやすいんじゃないかなと。そうなってくると、市長のことですから、たくさん来たらホテルもないじゃないか、何もないじゃないかと次のことを考えるじゃないですか。それはそのときの話であって、そういうふうに比田勝市長の歴史の中で、何かこれといったものを、ごみ以外に日本一を何かつくっていただきたいなと私は思うわけですが、どうですか、そこは。先ほどの考えと変わりはありませんか。もう一度よろしく答弁してください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） できれば、日本一といえ、韓国、外国との距離が49.5キロメートルというのは、恐らく国内でここが一番近いということで日本一になろうかというふうには思いますけども、これからも日本一と言えるもの、そしてまた、日本一と言えるような構築に向けて努力をしてまいりたいというふうに思います。

○議長（春田 新一君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。

る話はしましたけども、私としましたら、全てにおいて対馬が攻撃体制が遅過ぎると思っ
ているんです。どんどん前に出ながらしっかりPRしていただければ、今と違った形ができると思
っております。改めての話でございますけども、ごみの話は迷惑な話なんです、実は。だから、
これを市長が日本一でありますよということを世間で言わんでください、そういう話は。言っ
てもいいけど。そういうふうにもっと誇れるものの日本一にしましょうという意味でございますの
で、ここはよろしく取り計らいをお願いしておきます。

最後になりますが、全体において、全てにお金がかかる問題なんです。私どもは地域の言葉を
執行部に伝えるしかないんです、先ほどから話しますように。だからこういったやり取りになり
ます。決して、みんないい加減に仕事をしていると言っているつもりはありません。私は私の立
場で、市長は市長の立場でお話しされていると思いますから、今後ともすり合わせしながら、よ
い対馬づくりのためにお互い汗をかきたいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いし
ます。

以上でございます。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、波田政和君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開は14時5分からとします。

午後1時49分休憩